

NO	団体名	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
1	佐賀県地域づくりネットワーク	本田 節	有限会社ひまわり亭 代表取締役	資源を活かした まちづくり ひとつづくり 元気づくり	平成28年6月19日(日)
	講演内容			研修成果	
	1. 熊本地震「ひとくまねっと」によるネットワークを活かした後方支援～熊本震災から学んだこと 2. ふるさとの抱える課題と現状 3. 火の国未来ネットワークの取り組み			参加者:35名 前半は4.16熊本地震の発生、そして後方支援を行われた経験をもとに3つのワーク①ネットワーク②チームワーク③アットワークの重要性を教えていただいた。特にネットワークについては「いざという時のネットワークの素晴らしさ」としてこれまで出会った地域づくりの仲間から、たくさんの声掛けや支援物資、支援金が送られてきたことが紹介された。 後半は「ふるさとの抱える課題と現状」と題してこれまでの取り組みの話、これからのあり方の話をしていた。 地域づくりの実例からみるキーワード、まちづくりに必要な8つの「S」①スター②ストーリー③サービス④スペシャル⑤サプライズ⑥スマイル⑦ソーシャルビジネス⑧ソーシャルビジネスを教えていただいた。 県内の団体がこれからも持続的に活動をしていくため、d佐賀県のまちづくり活動のネットワークの強化のためのヒントをいただいたと思う。	

NO	団体名	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
2	群馬県地域づくり協議会	本田 節	有限会社ひまわり亭 代表取締役	広域連携によるグリーンツーリズム	平成28年6月29日(水)
	講演内容			研修成果	
	1 熊本地震での活動について 人吉球磨の地域づくり団体「ひとくまねっと」による被災者への支援活動の様子を紹介。地域づくり団体間が連携し、いざという時に備えての体制づくりを進めておくことの重要性を教示いただいた。 2 熊本県内の地域づくりについて 熊本県の地域づくり団体「火の国未来づくりネットワーク」のこれまでの取り組みを紹介。地域づくりを進めていく中で抱える課題やその解決手法を詳しく解説いただいた。 3 ひまわり亭について 講師が経営する農村レストラン「ひまわり亭」が行っている地域づくり活動について紹介いただいた。			参加者:71人 熊本地震における被災者支援活動の話を通して、日頃から地域づくりに関わる仲間と連携すること、ネットワークを構築することの重要性を教えていただいた。当協議会においても、団体が相互に連携して地域素養に取り組んでいける環境整備を進めていきたいと考えます。 参加者へアンケートを実施したところ、「地域の横のつながりがすばらしい。もつとがんばらなければと思いました」「地域づくりの手本となるすばらしい講演でした」「苦勞しながら実践する仲間との心の交流やその実践力に感銘を受けた」など多数の感想がよせられ、それぞれが今後の活動のヒントを得たのと同時に、改めて地域づくりへの意欲と熱意を掻き立てられた様子がうかがえました。 本研修で学んだことを参加者が各地域・団体へ持ち帰り、検討・実践することで、より活発な地域づくり活動の展開が期待できると考えています。	

NO	団体名	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
3	沖縄県地域づくりネットワーク	①婁 小波 ②石原 修 ③八前 隆一 ④比嘉 竜児	①東京海洋大学学術研究院 教授 ②コープおきなわ ひと・まち・ものづくりサポーター ③伊江漁業組合 代表理事組合長 ④株式会社琉珉珉 代表取締役	地域創生を目指して ～官民連携の成功事例に学ぶ地域活性化の取り組み～	平成28年8月26日(金)
	講演内容			研修成果	
	①婁 氏 初めに現在政府が行っている地方創生の流れから、6次産業化政策の背景や課題などを、大きな視点からわかりやすく説明した。また、地方創生の中でも経済の活性化について、沖縄モデルを例に、どういう仕組みでどこにどういうメリットが生じたか詳細な解説を行った。 ②石原 氏 伊平屋島で行われた特産品開発「チーム黒糖」と連動したキャリア支援教育「東大塾」で、島の子どもの成績が大幅に上がり、離島の教育問題のハンデをのりこえられた事例や、北大東島で規格外のジャガイモを使った焼酎「ぼてちゅう」を様々な立場の人達が連携して開発、販売し、障がい者就労支援につなげた事例などを発表した。 ③八前 隆一 魚佃安、流通、環境問題など、離島ならではの課題を抱えている伊江漁協が、どのような工夫で安定的に収益を上げていったかという取り組みを発表した。また、「イカ墨ぎょうぎ墨ちゃん」、「イカ墨ジュシーの素」他社との共同で生まれたヒット商品が、どのような流れでできあがったか、一次産業の現場の視点から加工品開発の具体例を発表した。 ④比嘉 氏 豊作で採れ過ぎ、価格が下がってしまったもずくをどうい経緯で加工品にし、「肝高のもずく餃子」というヒット商品に仕上げたか一連の流れをわかりやすく説明した。その過程で、問屋の人達や、売上金の一部を支援してもらった子どもたちなど、関わった人々が徐々にセールスマンとして機能していったことなど、様々な立場の人と協働することから生まれた波及効果を詳細に伝えた。			参加者:122人 ①婁 氏 経済学の切り口から、地方創生と6次産業化政策の現在を知ることができた。さらに本シンポジウムで行われた事例発表やパネルディスカッションに関しても、整理された形で事前に学習でき、以降の発表に対する理解を深めるための大きな助けとなった。 ②石原 氏 「商品開発、販売の経緯について詳しく聞くことができ、大変参考になった」「考えることよりも実行することが大事だ」という事を強く感じたなどの意見が出た。また、地域全体を巻き込んでいくことで、離島という大きなハンデさえも乗り越え、逆にそれを誇りにできるということを学ぶことができた。 ③八前 隆一 離島という鮮魚などを扱う上でのハンデを背負った環境の中で、「誰でも参加しやすい商品作り」をめざし、継続販売しているという島人の努力が、経済面だけでなく、伊江島そのものの魅力につながっていることがわかった。 ④比嘉 氏 もずく餃子を開発する過程での話からは、立場の違う人々が互いに意識を変えることで、より良い製品が生み出せることがわかった。また、沖縄はアジアへの展開を考えた時に地理的に優位であること、日本製品への信頼度の高さが武器にできることなどが理解できた。	

NO	団体名	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
4	宮崎県地域づくりネットワーク協議会	①池田 誠 ②安部 純子 ③壹岐 拓朗 ④高橋 勝栄	①一般財団法人北海道国際交流センター 事務局長 ②別府市役所 ③元地域おこし協力隊 現 おがわ作小屋村 ④宮崎県地域づくりネットワーク協議会 延岡ブロック代表者	九州沖縄地域づくり会議in延岡	平成28年10月1日(土) ～10月2日(日)
		講演内容		研修成果	
		<p>①池田 氏 北海道国際交流センターでの国際交流プログラムだけに限らず、若者の就労支援や環境保護活動・防災活動など多様な主体との連携による地域づくりの取り組みについてご講演頂いた。また、性別や世代を問わず様々な人々を巻き込む活動を行うことにより、ネットワークが更に広がり、円滑な組織運営にも繋がっているということであった。 また、共同学舎での自給自足の共同生活の経験から、共同学舎が掲げる「競争社会ではなく協力社会を」という理念が地域づくり活動を行う上でも大切だということだった。</p> <p>②安部 氏 NPOアート法人「BEPPU PROJECT」の取り組みや日本一留学生と共存する街での多文化共生事業についての取り組みなどの実践事例をパネラーの一人として発表していただいた。</p> <p>③壹岐 氏 西米良村地域おこし協力隊での活動経験から、地域おこし協力隊の理想と現実・今後の展望についてご講演いただいた。また、協力隊員がただの臨時職員で終わらないためには「地域活性化」というある種なんでもありな漠然とした課題に対して、協力隊を採用する側の自治体が明確な方向性を示すことが必要だということだった。</p> <p>④高橋 氏 山・川・海・食・歴史とあらゆる側面から「延岡の魅力」についてご講演いただいた。今後は九州No.1の下阿蘇ビーチ(海水浴場百選特選に選出)やマリンレジャーなどの魅力満載のエリア「ひむか遊パークうみうらら」や「食」を通じたまちづくりの取り組み「東九州バス構想」等、宮崎の「北の玄関口」として延岡の魅力を最大限に発信していくということであった。</p>	<p>参加者:91人</p> <p>九州各県から地域づくり活動の実践者にも多数参加いただき、延岡の魅力や実践事例を伝えることができたと同時に、他県での取り組みを知ることができる場を設けることができたことは大きな成果となった。 また行政・民間・元地域おこし協力隊・NPO職員などの講師にご講演・パネルディスカッションをいただいたことにより、多様な視点と事例から地域づくりについて深く学ぶことができた。特にどの講師も各団体や行政・民間などの垣根を越えた連携やネットワークが必要であるという点が共通しており、重要な課題であるという事を再認識することができた。 今回の九州沖縄地域づくり会議in延岡を通して、今後は県内外での連携や協働をより強固なものにしていく可能性が開けたと言える。</p>		

NO	団体名	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
5	愛知県地域づくり団体交流協議会	佐藤 恒平	地域振興サポート会社まよひが企画 代表	「無個性でも地域はおこせる?～朝日町とまよひが企画のチャレンジ～」	平成29年1月25日(水)
		講演内容		研修成果	
		<p>佐藤氏が提唱する「非主流地域振興(=成功事例の再現を模倣しない活性化手法)を主軸に自身の活動地域である山形県朝日町での活動事例を交えながらご講演いただいた。 活動事例である「桃色ウサビプロジェクト」、「お取り寄せグルメ学校」、「総合学習オーヤ商店」は全て住民と共に考え、進められた企画であり、結果、町の魅力を更に高めるものとなった。このように達成する目標が特段変わったものでなくとも達成までの道のりを住民と共に見つけていくという手法は、地域住民を上手く巻き込みながら、住民の持つアイデアを引き出すことに成功しており、それらを実現していくことで地域をつつていくという地域振興の一つの方法を示していただいた。 また質疑応答でも、世代間をどうやって繋いでいくか、後継者不足についてどうすればいいか等、日々参加者が抱えている質問に対し、講師自ら実践している方法を交えて回答していただいた。</p>	<p>参加者:88人</p> <p>近年、地域づくり関係者から地域の魅力が見つからない、活動をするための人材がいないといった悩みが多く寄せられる中で、佐藤氏が講演の中で紹介した「無個性」な着ぐるみを使った地域振興の取り組みは、関係者に新たな気づきを与えたと感じた。 参加者アンケートからも「個性のないキャラクター、非主流地域振興など自分の中では考えもしないことを知れた」、「佐藤さんの講演は今まで考えていたものとはまた違う目線のお話で、とてもユーモアがあって楽しかった」等、新たな視点を得て、参加者各々が今後の活動に活かしていくことが期待できる結果となった。</p>		

NO	団体名	講師氏名	講師職名等	テーマ	実施日
6	石川地域づくり協会	①赤須 治郎 ②濱 博一 ③森山 奈美 ④村本 睦戸 ⑤大地 美子 ⑥長澤 幸乃	①赤須企画事務所 代表 ②株式会社アスリック 代表取締役 ③株式会社御祓川 代表取締役 ④ドメインリーダーシップ育成センター 代表 ⑤i-planning 代表 ⑥一般社団法人金澤芸術文化交流ネットサルーテ 代表	石川地域づくり円陣 「それぞれの役割を胸に、いざ、次のステージへ！」	平成29年1月7日(土)
		講演内容		研修成果	
		<p>「地域づくりトークライブ」とのタイトルで、石川地域づくりコーディネーターがフリットークで各テーマについて話の流れをつくり、その意見を基に、会場を含め意見のある人が自由に発言する形式で実施。</p> <p><進行コーディネーター> 赤須氏</p> <p><登壇コーディネーター> 濱氏、村本氏、森山氏、大地氏、長澤氏</p> <p><狙い> ①コーディネーターを知ってもらう(顔、フィールド、考え方) ②石川の地域づくりの課題を抽出する ③地域づくり活動を面白く見せ、興味を持たせる</p> <p><トークテーマ> ①「石川の地域づくりは○○」 ②「地域づくりコーディネーターは○○」 ③「地域づくりがつまらないのは○○」 ④いま注目の地域づくりは○○</p>	<p>参加者:73人</p> <p>3つの狙いを達成すべく4つのトークテーマを展開したところ、参加者からは、「登壇されたコーディネーターの名前は聞いたことがあったが、実際にどういった考えを持っている人なのか分かって良かった」、「登壇者だけでなく会場からも様々な意見が聞け、次につながる視座を得たような気がした」、「日頃の活動だけでは得られない新しい出会いがあり、今後につながるだろう」との意見などが聞かれた。</p> <p>日頃の地域づくり活動だけを行っているという狭くなる傾向にある視野を広げ、参加者に新たな見方・機会を提供できたことは、本イベントの目的である団体相互のネットワークの形成、情報交換や他の団体との交流が図られ、参加者の刺激に繋がられたと言える。</p>		